

令和3年9月11日

第2回学校評議員会報告

本日、道徳授業地区公開講座を評議員の皆様だけを対象として参加していただき、意見交換会では本校教職員の研究協議の分科会にも入っていただきました。

学校長からは、意見交換会の最後に「道徳の時間」から「特別の教科道徳」に代わった背景の説明と、本日の授業を例に「多面的・多角的」と「自分事」についてご説明申し上げました。

その後、部屋を変えて、管理職と評議員の皆様で協議をし、評議員の皆様からは、主に以下のようなご意見をいただきました。

- リモートの授業では経験できない、実現できない授業だと思った。
- 会社の弊害でもあるが、自分たちが受けてきた教育が正解を求められる教育だったので、会議をしていても正しいものを求めるので、見つからないときはスピード感がなくなってしまう。今日のように、多面的・多角的な意見をどんどん出していけば、そこから、最も良い方策が出てくるはずだと思い参考になった。
- 全体の前での発表や、小グループ内での自由な意見交換を見ていて、子どもたちのアウトプット力があると思うと同時に、自尊心が高まっていると感じた。
- どの学級も授業の感じがとてもいい。
- 時代とともに題材が変わるのだと思った。特に、スマホの題材は、子どもたちに身近なため考えやすかったと思う。ただ、身近すぎて、教員の思うように進まないこともあった。
- 職場では、全員が同じ方向を向いてもらいたいがために、意見を求めるが、考えをもたない職員、考えをもっていても発言できない職員がいてうまくいかないことがある。今日の授業のように、自分の考えをもって参加し、グループの中でそれを自由に言える雰囲気があるのはとてもいいことだと思った。
- 発言しにくい子でも、きちんと自分の考えは紙に書いてあるし、そういう子に対して周りの子は、無理強いなどはしていなく、集団として大人だなとも感じた。
- オンライン授業とよく言われ、まるでオンライン授業がとてもいいというように報道されているが、やっぱり、集まって友だちと一緒に休み時間は好きなことを話せて、授業のときは自分の考えを言えるところが、学校のよさだと思った。

「特別の教科 道徳」にご理解いただきありがとうございました。また、本校の学び合いの授業につきましても評価いただき感謝申し上げます。今後とも、教職員一同、「特別の教科 道徳」の授業改善に向けて鋭意努力していき、最終的には、子どもたちにいい学びを還元できるようにしてまいりますので、今後とも、ご指導・ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願いいたします。